**目次**

[1．はじめに 1](#_Toc67487260)

[2．先行研究の検討 5](#_Toc67487261)

[3．資料と方法 7](#_Toc67487262)

[4．分析と考察 7](#_Toc67487263)

[5．結論 7](#_Toc67487264)

[6．参考文献・資料 7](#_Toc67487265)

# 1．はじめに

　近年、ベトナムと日本の関係は、文化の面でも経済の面でも深まっている。文化の面では、2018年の日越外交関係樹立45周年で、ハノイ・日本文化交流祭や日越音楽祭などの多くの事業がおこなわれた。2016年9月には日越大学修士コースが開設された。日本の大学もベトナムでの拠点を設立し、2014年には41件である。スポーツについても、2014年に本サッカー協会（ＪＦＡ）と越サッカー連盟（ＪＦＦ）のパートナーシップ関係を締結した。経済の面では、2017年末時点での累計投資認可額は495億ドルで、4年ぶりに金額1位である。また、2017年の貿易は中国、アメリカ、韓国に次いで第4位の334億ドルの輸出入金額である[[1]](#footnote-1)。

　両国の関係が深まるにつれ、日本で暮らすベトナム人の数は増えてきている。独立行政法人日本学生支援機構[[2]](#footnote-2)によると、2017年末には、日本に居住するベトナム人は約33万人、そのうち、留学生数は約8.1万人であり、76万人の中国人と45万人の韓国人に次いでいる[[3]](#footnote-3)。また、2019年度にはベトナム人留学生が73.389人であり、去年度に比べて、1035人増えた[[4]](#footnote-4)。

　そして、日本語を勉強するベトナム人の数も増えてきている。日本国際交流基金によると、2012年にはベトナム人日本語学習者は46.762人であり、2015年には64.863人で8位である[[5]](#footnote-5)。そして、2018年にはこの人数は174.521人であり、圧倒的に昨年の169.1%まで増え、6位に上った[[6]](#footnote-6)。

　日本語を勉強するベトナム人にとって、一番難しいのは漢字である。日本語学力テスト「NAT-TEST」では、１級は約1.850字を検定している[[7]](#footnote-7)。日本漢字能力検定では、2級で約2.136字、さらに1級で約6.000字まで検定している[[8]](#footnote-8)。

大量の漢字を覚えるのが大変だが、漢字の表記もベトナム人にとっては悩ましい問題である。たとえとして、辞書で「アヤマル」を調べてみると、同じ読みで漢字が違う「誤る」と「謝る」が立項されている。このような問題は、一般的に「異字同訓」と呼ばれる。

　まずは、異字同訓の定義を確認する。

*辞書によると、。。。。*

　沖森は、異字同訓について、「字義が相異なり、その用法も相違する漢字が訓を同じくする場合を『異字同訓』と呼ぶ」（沖森　2014、p.9）と述べている。

　山田は、異字同訓の問題について、「字形」、「音形」、「意味」の3項目の関係として整理している。すなわち字形が異なり音形が同じで意味が類似している語が異字同訓として書き分けの問題があるのである（山田　2014、p.14-15）。そして、例として山田は［作る／造る］、［長い／永い］を挙げている。一方で山田は、字形が異なり音形が同じで意味が非類似している語が「異字同音異義」であり（山田　2014、p.14)、つまり異字同訓ではないのである。

　沖森は、異字同訓は「字義が相異なり、その用法も相違する漢字が訓を同じくする」（沖森　2014、p.9）と述べている同時に、異字同訓として扱われない例外も挙げている。

（A）品詞が違う場合  
（B）同じ品詞でも、意味が異なる場合  
（C）同じ品詞でも、語の性質が異なる場合

（沖森　2014、p.10-12）

　また、沖森は書きわけの問題。。。。

　したがって、沖森の定義は明確ではないと判断するにつれて、本論文では、我々は山田にの定義に従う。

　2014年に『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』が文化審議会国語文学会により発表された。『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』の前書きには以下のように記述されている。

同訓の漢字の使い分けに関しては、明確に使い分けを示すことが難しいところがあることや、使い分けに関わる年代差、個人差に加え、各分野における表記習慣の違い等もあることから、ここに示す使い分け例は、一つの参考として提示するものである。したがって、ここに示した使い分けとは異なる使い分けを否定する趣旨で示すものではない。また、この使い分け例は、必要に応じて、仮名で表記することを妨げるものでもない。

（文化審議会国語文学会　2014、p.2）

　つまり、報告に示された「使い分け例は、一つの参考」であって、強制力をもった規則ではないということである。これは「仮名で表記することを妨げるものでもない」と書かれていることにも通じている[[9]](#footnote-9)。

　『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』には、通用漢字表[[10]](#footnote-10)に示された同訓の漢字133組が上げられいる。例えば、「あし【足】・【脚】」や「きく【聞く】・【聴く】」などである。ただし、同訓の漢字であっても、通用漢字表に入っていない字は使い分け例表に含まれていない。

　しかし、異字同訓は、語の認定の問題に関連し、単純ではない。語の認定の問題は、語の長さと語の幅の問題である。語の長さの問題とは、日本語では分かち書きをしないため、何が1つの語か、どこで区切りをするのかは明確ではないということである。一方、語の幅の問題とは。。。。。こうして、異字同訓は語の幅に関連りている。

　語の幅の問題として考えば、異字同訓は多義語にかかわる現象と考えられるし、一方類義語にかかわる現象とも考えられる。

　異字同訓は多義語にかかわる現象と考える場合とは、［作る／造る］、［長い／永い］のような、字形が異なり、音形が同じくして意味が類似している「異字同音類義」の語は一つの多義語と考えるということである（山田　2014、p.14）。逆に、異字同訓は類義語にかかわる現象と考える場合とは、表記が異なる別の語と考えるということである。実際に辞書の見出しを見てみると、『。。。辞典』には「暑い」と「熱い」は別に立項されている。つまり、『。。。辞典』は「暑い」と「熱い」は別の語として見なしているということである。しかし、この場合は「暑い」と「熱い」の意味が類似している。

*引用。。。。*

　「暑い」と「熱い」は、「。。。」という点において意味が共通しているが、一方で使用対象という点において意味が異なっている。つまり意味の大部分が同じであるが、実の細かいところが異なっており、「暑い」と「熱い」は類義語の関係にあると言えるのである。

　先ほど確認した通り、本論文では、山田の定義に従い、異字同訓を多義語の意味に応じた書き分けの問題として考えて論を進める。

# 2．先行研究の検討

　まずは、『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』の記述を確認する。『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』には、以下のように説明を書かれている。

かたい  
【堅い】中身が詰まっていて強い。確かである。  
堅い材木。堅い守り。手堅い商売。合格は堅い。口が堅い。堅苦しい。  
【固い】結び付きが強い。揺るがない。  
団結が固い。固い友情。固い決意。固く信じる。頭が固い。  
【硬い】（⇔軟らかい）。外力に強い。こわばっている。  
硬い石。硬い殻を割る。硬い表現。表情が硬い。選手が緊張で硬くなっている。

（文化審議会国語文学会　2014、p.12）[[11]](#footnote-11)

　『三省堂現代新国語辞典　第十刷発行』には「かたい」は以下のように記述されている。『三省堂現代新国語辞典　第十刷発行』には、「かたい」は「固い」「硬い」「堅い」といった別の語と見なし、それぞれの意味が記述されている。

かた・い  
【固い】〈形〉  
①（水分が少なく）中身がしまっていて、形がかんたんには変わらない。  
「―餅・粉を固く練る」  
⇔柔らかい  
②しっかりしていて、かんたんにはくずれない。  
「―団結・―約束」  
⇔もろい  
③気持ちがしっかりしていて変わらない。  
「決意が―・固く信じる」  
④すきまがなくて、かんたんには動かない（・ほどけない）。  
「障子が―・―結び目」  
⑤しっかり力がこもっている。  
「固くだきしめる・―握手」  
⑥きびしい。  
「固いましめる」  
⑦たしかだ。まちがいない。  
「合格は―」  
⑧融通がきかない。がんこだ。  
「頭が―」  
固くなる：緊張しすぎて身体や気持ちがこわばる。「あまり―な」  
【硬い】〈形〉  
①［金属・石などについて］力を加えても、まがったりへこんだりしない。  
「―宝石」  
②よく練れていない。  
「―表現」  
③こわばっている。  
「表情が―」  
⇔軟らかい・柔らかい  
【堅い】〈形〉  
①［材木などについて］力を加えても、まがったりへこんだりしない。  
「―材質」  
⇔柔らかい  
②守りがしっかりしている。  
「城の守りが―」  
⇔もろい  
③手がたい。堅実だ。  
「―商売」  
④ましがないくて信用できる。  
「―店」  
⑤まじめて、義理がたい。  
「―人間」  
⑥かたくるしい。  
「―話・―ことばかり言う・堅く考えなくてよい」

（市川　孝　2001、p.203）

　つまり、「固い」には8個の意味があり、「硬い」には3個の意味があり、「堅い」には6個の意味があるということである。詳細に意味が分類されているが、代表的な意味が分かりにくく、日本語学習者にとって使いにくい。また、意味が重複している部分があるように見えるのである。

# 3．資料と方法

# 4．分析と考察

# 5．結論

# 6．参考文献・資料

1. 出所：https://www.vn.emb-japan.go.jp/files/000352067.pdf [↑](#footnote-ref-1)
2. 独立行政法人日本学生支援機構とは、日本において、主に学生に対する奨学金事業や留学支援・外国人留学生の就学支援を行う独立行政法人（中期目標管理法人）である。JASSOとも呼ばれる。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 出所：中馬　愛（2019）「ベトナムにおける日本の大学の協力状況・国費留学生・留学生を巡る問題」、ウェブマガン『留学文流　2019年6月号Vol.99』、JASSO、p.50。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 出所：独立行政法人日本学生支援機構（2020)『2019（令和元）年度外国人留学生在籍状況調査結果』（<https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2019.html>） [↑](#footnote-ref-4)
5. 出所：日本国際交流基金（2017）『海外の日本語教育の現状　2015年度日本語教育機関調査より』、p.13（<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2015/all.pdf>） [↑](#footnote-ref-5)
6. 出所：日本国際交流基金（2020）『海外の日本語教育の現状　2018年度日本語教育機関調査より』、p.15（https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey2018/all.pdf） [↑](#footnote-ref-6)
7. 出所：http://www.nat-test.com/contents/comparison.html [↑](#footnote-ref-7)
8. 出所：https://www.kanken.or.jp/kanken/outline/degree.html [↑](#footnote-ref-8)
9. 日本語では、そもそも正書法が存在しない。 [↑](#footnote-ref-9)
10. 通用漢字表には、2136字が入っている。 [↑](#footnote-ref-10)
11. 記録047番 [↑](#footnote-ref-11)